



カツオノエボシ

写真の個体は、波が荒かった翌日に、泡瀬の海岸に打ち寄せられていた生きものである。どれが生きものかという、写真中央の青色がかったものである。これは、カツオノエボシといって、クダクラゲ目カツオノエボシ科に属する刺胞動物である。非常に強い毒を持ち、「電気クラゲ」の別名があり、刺されると強烈に痛み、刺された人の死亡例も報告されているらしい。ヒドロ虫の仲間属し、ミズクラゲやエチゼンクラゲのようなクラゲとは異なる。

1 個体に見えるのは、実は多くのヒドロ虫が集まって形成された群体である。この種は、海上に出ている部分が、帆をはったポルトガルのキャラベル船に似ていることから、ポルトガルの軍艦とも呼ばれている。

青いビンとよばれているように、1 個の青い気泡体を持つ。この気泡体（中には二酸化炭素がつまっている）で水面に浮き、その下面には多くの幹状のものがたれさがっている。その中に数本の長い触手があり、最大 30m まで成長する。

天気が悪い日の翌日などには、海岸に多くのものが打ち寄せられる。

そのような漂着物の中に、写真の生きもののような危険生物が混じっている危険性もある。

もし、見つけても、決してさわらない方がいい。一見、死んでいるように見えても、生きていることが多く、刺される危険がある。